

平成20年12月

[配布先：全組合員]

市場情報

「日時」 平成20年12月11日（木） AM. 11:30～
「場所」 大阪「ラマダホテル」
「出席」 酒匂委員長他17名(最終頁参照)
「経過」

1. 酒匂委員長挨拶

焦らず確実に

8月、9月と米国発の金融危機がEU、日本の金融機関に大きな影響を与え始めましたが、まだその段階では日本の製造業は、設備投資に力強い動きを見せている需要分野もあり、又、下落したスクラップ価格に一時反発の動きがあったりと、我々組合員の中には、特に大手紐付き建機系シャーやメーカー系大手建材シャーには深刻さは見られませんでした。しかしながら、10月、11月と経過するごとにスクラップが市中で10,000円を割りこむ事態に至り、全組合員が大幅な減益になると言う共通の認識となり、大手家電、自動車メーカーが9月中間決算と、09年3月期決算予想を発表し、設備投資の大幅削減計画とリストラ発表が次々と新聞やテレビで見えるにつけては、日本の実体経済にも大きな影響がでて来たことを実感するに至りました。国内外で厚板需要を支えてきた建機、産機、大型プロジェクトに大きな

変化が見えてきたのが11月になってからです。最大需要家の造船も10月の受注が前年比マイナス85%と、ショックのニュースには枚挙にいとまがないと言った状況です。

しかし、まだ救いは、高炉メーカーの厚板ミルは造船の生産量(+10%~20%)によってフル操業が続いていることと、少なくとも09年上期までは高炉、電炉共に増産余地が少ないと言われていることです。しかも高炉メーカーは価格政策を変更する様子はないと聞いています。厚板は他の品種と違い需給は均衡しています。組合の方々は今回の100年に一度の緊急事態をご理解いただき、在庫調整、メーカー契約残の調整等により、来たるべき時に備え、資金の確保を第一義に考えねばならないと思います。高炉メーカーはH形鋼同様、厚板も需給バランスを重視しており、紐付きの減少に対しても、店売りの減少時の対応と同様に、徹底的にユーザー及び各シャヤ会社との在庫調整を早急を実施すべく行動するものと思います。

厚板にはまだ残された時間はあります。安く売っても、高く売っても一時的なもの、量的期待は出来る状況ではなく、焦らず、しかも確実に皆で実行しましょう。縮小均衡の時代が続くことを覚悟しなければならないと思います。

(京浜産業社長)

2. 各地区の需要動向報告

北海道

受注堅調大手ファブ

今年も残り20日余りとなりましたが、札幌周辺のスキー場も11月22日(土曜日)一斉にオープン、スキーヤーにとっては待ちに待った楽しい季節を迎えました。

北海道経済については、産業構造の問題に加え、国や地方の厳しい財政事情を反映し、雇用情勢、消費や設備投資の低迷が長年続いているうえ、米国のサブプライムローン問題で、金融危機が瞬く間に世界各国に拡大、急激な景気後退により道内企業におきましても、受注量の落込みや販売価格の大幅な下落、原材料・資材の高騰や競争の激化による採算悪化が顕在化し、経営環境は非常に厳しい状況にあり、企業倒産も02年以来7年ぶりに、年間700件台になるのは確実とみられている。

〔鉄 骨〕 北海道地区建築統計による1月～9月の鉄骨需要推計は、159,600トンを前年同月比7.5%増となった。一方、積算によると、175,385トンを前年同月比100.3%となっている。しかし、9月、10月、11月の積算数量は小型物件が散見される程度で、新規案件は少なく、1年ぶりに1万トン/月を割り込み、3ヶ月間の積算数量計は29,874トンを前年比39.4%と先行きの見通しは暗くなってきた。

北海道内鉄骨需要は、Hグレードファブを中心に大手ファブは道央圏内で相次いで発注された大型物件に加え、首都圏の大型物件の受注により、需要量としては例年を大幅に上回る山積みにより、09年の上期まで工場が埋まっている。これに対して、中小物件は、鋼材の価格問題や急激な景気後退により、計画の見直し、工事の延期や中止などにより地方を含め少なく、この先案件も期待できず、M・Rグレード以下の中小及び地方のファブは1月以降の山積み確保に奔走しており、大手ファブと中小ファブの二極化は一層拡大している。この様な状況下、鉄骨加工費・適正利潤確保、鋼材価格問題に加え、ゼネコンの業績悪化による淘汰・再編が本格的に始まり、信用不安増幅に対する与信管理を確実に実行することが最大の課題である。

〔橋 梁〕 国や道を筆頭に各市町村の厳しい財政事情に加え、談合問題発覚で発注が危ぶまれていたが、08年度橋梁もほぼ予定どおり(24,

600トン/年)順調に発注され、各ファブ共にメーカーロールのタイト化による素材納期の長期化も改善の方向にあり、若干の入荷遅れによる加工工程の調整はあるものの、年度末までの山積みは充分とはいえないがほぼできている。

又、橋梁耐震対策、補修・補強材としての落橋防止装置、鋼製床版は予定通り順調に発注され、加工山積みはほぼでき、価格についても受注競争により一部低入札もあったがようやく安定してきた。今後、景気対策として補正予算・ゼロ国債の予定があり、橋梁・落橋防止装置製作ファブは大いに期待している。

[切板の状況] 道央圏中心に相次いで発注された大型物件に加え、首都圏の大型物件の受注加工により、各シヤー業者とも切板加工数量、稼働率にバラツキはあるものの、比較的安定操業が続いている。

しかしながら、メーカーの生産は依然としてフル操業にあり、納期は若干緩和されたが、これ迄の引き受け枠カット、枠振り替え、切板母材立替えの影響で、SS400、6・9・12・16mmや各規格とも、ベースサイズを中心に歯抜けサイズの解消ができていない。また、市中品手配の増加により納期遅れや素材価格の上昇、輸送費増によるコストの上昇により、製品価格への転嫁で、中小ファブを中心に、店売りの分野で顧客の要望に答えることができず、高炉メーカーの供給が緩和されると思われる来春まで解消できない状況である。

これから引き続き道央圏の大型物件が発注され、農業関連の大型案件も期待されており、受注物件の厚板母材を慎重に手配すると共に、適正利潤を確保するとともに、改正建築基準法の影響や、鋼材など諸資材の高騰などによる建築業界の不況により、鉄鋼業界でも与信リスクが一層高まっており、与信管理を確実に実行しなければならない

〔建築鋼材(切板)の品質(トレーサビリティ) 管理の確認〕

鋼板の受け入れから、厚板母材・残材の管理・切断工程・切板出荷までの、作業内容・識別及びトレーサビリティ管理体制確認のため、各々物件ごとにファブの指定立会いのもと、ゼネコンの立ち入り検査を受けることが多くなった。

要望資料は、

1. 体制施工要領所（組織図・フローチャート）
2. 品質管理シート（板取り表）
3. 納品書の板番を記入する
4. 鋼板を刺身状に配列材料検査の実施（設計事務所・ゼネコンによっては民間物件も）
5. 原板にマーキング後切断

等々、トレーサビリティに対する要望は、ファブ、ゼネコンによってマチマチであるが、段々エスカレートし、全てが生産性・コストに係わり、要望どおり実施できる所とできないところとあるので、立会い時には「全国厚板シェアリング工業組合にて実施要領について検討中であり、統一要領が示されたのち、要領に基づいて要望どおり資料を提出する。」と回答している。

（玉造(株)・西村卓也）

東 北

全てが不透明

東北地方はいよいよ冬本番を迎えます。先日、仙台市内にも初雪が降りました。蔵王の山々は美しい紅葉で彩られていましたが、もう頂には積雪が見られます。

東北地方の状況は、地場物件の少ない中、工事の延期・見直し・中止が始めています。特に影響が大きい物件が、東芝北上の延期です。半導体市場

の不振で再開はいつなのか不透明の状況です。

当然、地場物件の少ない東北地方では、大きな期待感が有りましたので、東芝北上の工事延期はファブの山積みに大きな影響を与え、その穴埋めをするべく奔走しており、その結果、鉄骨安値受注に結びつかないように願うばかりです。

幸い、セントラル自動車関連工事は先日地鎮祭が行われ、多少の工事の見直しはあるかもしれませんが、来年2月頃より切板が始まります。

シャアの稼働状況は、11月初旬までは順調でしたが中旬以降引合いが少なくなり80%程度に落ち込んでいます。全体としては来年2月頃までは何とか受注はあるものの、新年度の見通しは不透明で、大変厳しい状況に追い込まれそうです。

東鉄の値引き発表以後、高炉材が高止まりの為、電炉材での見積りを希望する客先が出て来ています。今後は高炉材の価格がどうなるのか、切板価格への影響が気掛かりです。

(J F E 鋼材・湊和志)

東 京

建産機急停止

建産機の全体感は、5月頃から潮目が変わり始め、夏場からは需要家の減産傾向が顕著となり、足元の状況は世界同時不況を反映したすさまじい受注環境の悪化となっています。5年以上に亘る長期の増産基調がいよいよ急停止してしまいました。

見込み生産が主流である産機・建機に携わる関係シャアの苦しみは、需要家の生産月より先行加工している為に、加工の調整量が減産幅より膨らむことと、更にはそれが素材在庫や契約残を余分に抱える結果となることです。建設機械分野は、超大型に分類される機種以外のものは11月に入り激減して

います。

〔油圧ショベル〕 ミニ・小型に始まった生産調整は、主力である中型から大型まで拡大しており、08年度下期は当初計画の30%～40%の減産となっています。

〔建設クレーン〕 トラック・ラフテレーンクレーンは、輸出のキャンセルによる突然の生産中止や、国内販売不振による在庫調整等で受注減となっているものの、大型がかろうじて減産を免れていることが救い。クローラクレーンは例外的に堅調を維持、来年度上期までの生産計画は落としていないようだが、遅かれ早かれ調整局面が来るのでは。

〔ダンプ〕 鉱山機械の関連としての大型ダンプは10年以上先まで堅調と言われていたが、この部門も資源環境の急変により受注減、11月から生産調整。

金属加工機・鍛圧機械分野も、輸出の激減の結果、下期計画は25%～30%程度落ちています。これまでは国内の低迷を輸出でカバーしてきたが、この分野でも建機同様に全般に生産調整を余儀なくされています。特に自動車業界不振の影響が大きいと見られる、プレス機械の落込みは大幅で、先行きも全く見えない状態です。

重電分野は、唯一堅調を持続、さらに先行きも明るいと思われる分野です。世界的な電力需要の拡大による発電・送電プラントや各国の製鉄プラントのモーター関連の受注が好調です。

店売り分野では、9・10月に比べ11月以降極端に受注減の状態となっています。素材在庫も増えており切板単価は上がり三重苦の状態。与信不安の問題もさらに深刻さを増しており今後も多難な状態が続きそうです。

(ニューエイジ・池田啓志)

東京

鉄骨・橋梁は、来年度上期までフル稼働

1. H20年4月～11月の実績

〔橋 梁〕 一昨年の指名停止影響から、物件が大量にずれ込んでおり、H20FYの入札量は30万トンの強のレベルだが、鋼材発注量は55万トンの見込み。従って、FAB各社の手持ち工事量は高く、我々の加工量も06年下期以降高原状態が続いている。手持ち工事量は高く、我々の加工量も06年下期以降高原状態が続いている。特に、今年度上期は大型案件が集中し、過去最高の加工量であった。

06上	06下	07上	07下	08上
24.2千トン	31.8千トン	30.0千トン	31.5千トン	33.8千トン

〔鉄 骨〕 大型設備投資案件（シャープⅡ期・東芝等）の中止・延期が相次ぐ中、超高層ビル案件（特に首都圏）の建設計画には、今のところ大きな変化は見られない。但し、3～9月は、FAB・GC間の価格交渉のもつれから、やや低調であったが、10月以降は再度本格発注になっており、高レベルとなっている。但し、11月は各メーカーの熱処理材のデリバリートラブルの影響により、加工量は一時的に大幅減少したが、12月以降も注文量は高水準。

〔全 体〕 橋梁、鉄骨とも需要は高水準であるが、メーカーのロール引受けやデリバリーが極端に悪化しており、一部空きが出るケースもあるが、全体としてはほぼフル稼働が維持出来ている。

2. 今後の動向

〔橋 梁〕 今年度下期も橋梁発注は高水準なるも、メーカーロールが極端に絞られておりシャヤーによっては空きが出る所も出てくる可能性あ

り。来年度の橋梁発注量(入札量)は、今年度比微減の見込みだが、ずれ込みを含めた鋼材発注では50万トンのレベルとなると予想されている。

従って、現在の各FABの手持ち工事量(来年1/四まで)と、今下期以降の入札規模を勘案すると、来年度上期あたりまでは、高レベルの発注が期待できるが下期以降は微妙。

〔鉄 骨〕 大型設備投資案件、中小テナントビル及びマンションが次々と中止・延期されており中小ファブ(M. R グレード)の仕事量は激減。年明け以降の仕事量は全く見えていない。一方、超高層ビル案件には今のところ大きな変化は見られず、大手ファブの稼働は来年度上期～年度末まで埋まっている。但し、その先はGCにも全く引き合いがない状況であり、極めて不透明。

〔全 体〕 メーカーロールさえ付けば、各社とも来年度上期まではフル稼働できる状況と思われる。但し、下期以降は橋梁・鉄骨ともピークアウトする可能性があり、極めて不透明。

(富士鉄鋼センター・井沢純司)

東 京

一般店売りはその日暮らし

浦安地区の店売りは、中板とホットコイルに足を引っ張られて冴えない状況が続いている。その中で仕事量の受注残は2～3日程度と少なく、その日暮らし状態にある。在庫はそれほど多くないが荷もたれ感が残る。引合い減、東鉄の影響等から市況環境は厳しくなっている。(三ノ橋鋼材・角田善彦)

もともと低位安定が続いているので、ことさら懸念する事案でもないが、大手FABとは対照的に中小FABの状況は相変わらず厳しい。それを客先とする中小シャアの仕事量は少なくその日暮らしが続いている。来年4月以降どうなるか分からないが当面する資金繰り問題などに怠りなく対処したいと思う。(丸東興業・秦弘志)

東 京（書面参加）

冬に備えて

浦安では10月後半、特に東鉄の価格発表以降、一般店売りの荷動きが鈍っている状況です。スクラップ価格の夏以降の急激な下落もあり、値下げは誰もが予想していたでしょうが、下げ幅が予想以上でした。

高炉の厚板は依然価格を維持しつつ、一部値上げもありますが、一般ユーザーは先安感から様子見も出て来ているようです。切板価格も更なる値上げを言いづらくなってきましたが、何とか現状維持にご理解いただいているうちに在庫を減らして本格的な冬に備えたいと思います。

（武部産業・長澤裕介）

東 海（書面参加）

英知と団結力

今年も早いものでもう師走を迎える季節となりました。シヤー業界も色々な面で大きな変動の年であったと思われれます。とくに原料、輸送費等の高騰により昨年からの連続した厚板の値上げ、また、スクラップの異常な高騰と暴落など、我々の想定外の出来事が連続して起きたのではないかと思います。切板受注量についても比較的堅調であった直需向けも先行き大幅な生産調整で下方修正が見込まれ、仕事量の確保はますます厳しくなることを予想しています。

今回の不況は100年に一度あるかないかの大不況で、破綻する国も出てくるのではないかとされており、先の見えない不安にすべての業界が萎縮してきています。シヤー業界も過去大きな不況を経験してきており、それらを乗り切った英知と団結力でこの不況を克服してゆく必要があると思います。

(テクノタジマ・羽賀稔穂)

東 海

与信管理が頭痛のタネ

東海地区のヒモ付、及び一般店売の熔断業者は、リーマンショック以後、受注が減り始め、11月に入りトヨタ自動車本体の生産見直しを受け、トヨタ関連企業の11月以降の設備計画の白紙見直し、工場やビル建設の延期キャンセルなどで設備関係やクレーン、昇降機など仕事が大きく減り又、工作機械も大幅生産調整があり、ヒモ付でやっている業者も仕事が減ってきました。好調であった建機も、生産計画に対して30%~40%のダウン、前年比10%ダウンで、まだ、このままで推移すればよいが、先行きはわからなくなってきました。比較的まだ仕事があるのが造船と鉄道車両ぐらいになってきました。

一般店売業者は町場のスポット仕事が拾えず、切板価格も下落傾向にあり、見積りベースでお客さんの顔を見ながらという状態になっています。又、仕事が拾えない為、在庫も増え、申込を調整するところも出てきています。スクラップ価格の下落や受注減、切板単価の下落と急激に経営を圧迫する材料が増え、特に与信問題が一番頭の痛いところになってきました。

(鈴将鋼材・鈴木康司)

東 海

トヨタショック

大手メーカー系シャーは、11月までは仕事量も多く稼働状況も繁忙といった状況であった。今年度中は橋梁物件などもあり仕事量はあるが、材料の入荷次第での稼働状況となる。メーカーシャーといえども物件の延期や中止の影響が出始めているところもあり、先行きの需要はかなり不透明な状況となっている。

シャープ堺と東芝四日市の工事延期の影響も東海地区ではかなり影響が出ているが、それにも増して東海地区お膝元のトヨタショックによる影響はかなり大きい状況である。

関東自動車、豊田中央研究所、デンソー本社、デンソー善明、デンソー安城、アイシン泉寮、大興運輸、三岐通運などトヨタ関連の鉄骨工事が相次いで中止となっており、現在工事が着工している物件でも中止、延期等の見直しが行われている物件もあり、東海地区の需要は想像以上に急激に悪化してきている。

そのためH、Mグレードのファブリケーターの手持ち仕事は来年3月ほどまでしかないため、現在生き残っている物件に対してファブリケーターが群がっている状況らしく、工場稼働確保のために鉄骨工事受注単価の叩きあいが始まっている様で、切板製品単価の値下げ対応の依頼が来ている状況である。

鋼材はスクラップ単価の下降と需要の低迷により東京製鐵などの電炉製品の販価の値下げが行われているため、高炉材の市況品種である鋼板に関しても、値下げを見越したゼネコンの鉄骨建築物件の受注単価設定の話もあることから、切板製品単価は素材の値下げが始まれば、鉄骨建築物件の延期、見直し、中止という厳しい需要環境からも、急激な切板製品値下げが始まるかもしれない状況である。ただし製品値下げ対応をしたからといって受注が集まらない形鋼の状況からすれば、安易な加工賃の値下げによる切板単価対応は熟考しなければならない。

(中部鋼鉄・加藤一修)

大 阪

高炉姿勢は強気維持

1. 全般

- (1) 世界的な景気後退から、軒並み設備投資の見直しや中止により、市況は悪化の一途を辿っている
- ① 特に東鉄の大幅値下げ（9契から合計で-46）と、少しは持ち直しとはいえスクラップ価格の下落により、ますます悪くなってきている。
 - ② 東鉄の価格は40mm迄しか製造できず、量も5万tであるが、価格は東鉄に引きずられて行く。またスクラップの価格から、まだ下がるとの観測から量は集まっていない。
- (2) 高炉メーカーはまだ造船が堅調であるがゆえに潮目を迎えているのにも関わらず、まだ強気である。
- (3) 市中にはまだ高い材料があふれており、損切をどれだけ我慢していくかである。当然のことながら与信上の問題も大きくなり、倒産も増加傾向である。11月の近畿は342件（前年同月比+0.6%）、827億円（同 +16.2%）

2. 品種別

(1) 厚板

- ① 目先の仕事が急激に悪化。価格動向を窺う見積が多く、回答に苦慮している。
- ② 自動車関連の下方修正により、金型や部品関係も受注急落し相場観が混乱している。

(2) 中板

- ① 厚板と違って落ち込み幅が極端でどうしようも無い状況である。荷動きも悪く市況は更に悪化する模様。

3. 需要部門別

(1) 鉄骨

- ①シャープ／二期の延期のように、昨年から続いていた大型物件は名前だけになり、来年は見受けられず、大幅に減少する模様。
- ②建築着工面積をみると昨年施行された時の最悪期は脱したようであるが、これから落ち込んでくると思われる。

	SC	SRC	近畿／非住宅
10月	4,921 千㎡ (前年同月比+2.1%)	366 千㎡ (同 +82.1%)	669 ㎡ (同-35.5%)

(2) 橋梁

- ①各FABとも足元は忙しいが、手持ち工事量の残は意外と少ないことと、来年度は30万台になると予想されており、来年度は落ち込む模様。

(3) 建機

- ①春先からミニ・小型は落ち込んでいたが、中・大型の落ち込みもひどく、生産計画は毎回、下方修正され、ピーク時の50%程度とも言われている。

(シーヤリング工場・佐々木泰司)

九州

頼みの造船

8月、10月のスクラップ急落、東鉄の大幅値下げ、サブプライムローン問題による信用収縮等による実体経済悪化が急速に需要縮小、市況下落を招いている。

特に直近、自動車、建機の落ち込みは激しく、関連業界への影響は今から月を追って厳しくなっていくものと思われる。建築物件は博多駅ビル等継続工事等足元大幅な落ち込みはないが、着工延期、凍結等が多くなり来年からの仕事量に対する不安が大きくなっている。

厚板シャアの仕事量は、一般切板の落ち込みが激しく、建築規格材を除き

厚板のタイト感はなくなってきた。

切板市況も一般切板が先行して弱含みの展開となっている。

また、スクラップ価格の大幅な下落も切板の採算に大きなダメージとなっている。

〔建 築〕 九州地区の8、9月の建築着工統計は下表の通りで前年同月比ではSRC造を除きプラスになっている。

ただ、19年6月に建築基準法が改正され、昨年の8、9月は駆け込み申請の反動で数字が低くなっており、18、19年平均との比較では大幅なマイナスとなっている。

また着工を凍結、延期する物件も出件し始め今後、ファブリケーター、厚板シャアの仕事量への影響は大きくなると懸念される。

着工延期 = 日田キャノンマテリアル (4千ト)

着工凍結 = 富士写真フィルム4期工事 (7~9千ト)

サムコ伊万里6期工事 (13千ト)

今後も延期、消滅する物件が出てくるのではと懸念されている。

建材切板市況は、規格厚板素材のタイト感は継続しており比較的崩れていないが、ファブの仕事量減少、ゼネコンの鋼材価格の先安感による発注先送り、鉄骨単価下落の影響が今後切板価格に及んでくる状況になってきた。

九州地区建築着工統計推移

(単位：千㎡/月)

	H18年度	H19年度	H20年度		H20年度		
	平均	平均	8月	前年同月比	9月	前年同月比	18年同月比
R C造	551	381	448	+66.2%	464	+97.8%	▼28.9%
SRC造	73	52	51	+97.6%	31	▼76.1%	▼69.8%
S 造	664	564	549	+89.8%	419	+30.8%	▼38.4%
着工面積計	1288	997	1048	+79.3%	914	+33.1%	▼36.4%
鉄骨所要(推定)	70	59	57	+90.1%	43	+12.5%	

上位のHグレードファブは来年前半までの仕事はほぼ確保しているが、下位グレードのファブは1ヶ月分の仕事も確保出来ていないところもあり、格差が激しくなっている。それに伴い、厚板シヤの仕事量も小規模シヤの仕事は不足感が大きくなっている。

〔橋 梁〕 全般に昨年より順調な発注が続いているが、羽田沖プロジェクトが21年2月で終了する予定で、その後の大型物件の予定はなく、関連する厚板シヤへの影響が懸念されている

〔自動車〕 九州北部の自動車生産台数は2007年度に110万台を突破した。2008年度に域内の年生産能力は150万台になったが、サブプライムローン問題以降の景気急落の影響は月を追って大きくなり、特に北米向け輸出比率の高いトヨタ九州は、年末2日間前倒しでラインを完全に止める事態になっている。また来年1月から二つの組み立てラインの一つを現在の2直体制から、昼のみの1直体制に減産を強めると発表した。縮小された08年度の生産計画は昨年度実績の44万4千台より28%少ない32万台となっている。

また、日産自動車/九州、ダイハツ九州も減産に入り、3社合計の生産見込みは今年春時点の127万台から103万台にまで落込んでいる。

各社の生産計画はなお流動的で2年続いた100万台生産も危ぶまれる状態になっている。

〔造船〕 九州地区の造船大中手は2012年一杯、小手は2009～12年までの仕事は確定し、現状では、キャンセルの話はなく山高で稼働を継続しているものの、中にはピッチダウンへの対応等の話もある。

また造船各社はクレーン能力向上、新ドック稼働、ショットプライマールライン増強、ブロック建造能力増強は完了し、生産能力は向上しており、厚板の供給拡大を要望している状況にある。

高炉メーカーも最優先で厚板供給に努力しているが、現状では造船メ

一カーの要求を満たすには至っていない為、今後他分野の落ち込み分を『頼みの造船』に振り向けることになると思われるが、足元の海運状況を勘案すると一抹以上の不安が懸念される。

(豊鋼材工業・嶋津邦夫)

3. 木村副委員長のまとめ

嵐の来る前なので、当然のことながら各支部からはあまりいい話は聞けなかった。百貨店等のバーゲンセールは例年シーズンに入る前に、季節商品を売り切ってしまう。我々にも同じことが言えるのではないか。だからと言って酒匂委員長の話の通り、安売りをして、他の人の迷惑になるようなことは厳に慎まねばならない。来年春頃に母材価格が動く想定すると、尚更今の判断は難しいし、複雑な局面にある。今年これまでずっと原材料価格の上昇分をユーザーに転嫁すべく努力してきたが、今度原材料価格が下落した場合、その受益者はいったい誰なのか考えてしまう。シャ業は加工賃が乗らなければ商売にならない。だから母材価格の下落に巻き込まれずに、自分の城は自分で守るしかないと思う。

4. 理事長の感想

大きな変化が起き、その中で、いま狼狽している状況にある。特に落差の大きい東海地区は激震を受けている。来年どうなるかは全くわからない。一つ確かなことは再三申し上げているように、我々シャ業の金融構造が変化していることを、仕事量が減ってきているいま、もう一度認識してほしい。魚のいない所に餌はやらないが営業ビヘイビアの基本である。また、量を追うことのないようにしてほしい。皆で追えばいつか来た道に戻ってしまうので、もう一度佇まいを確認していただきたい。突然機能不全にならないよう、各自限界点を見極めて進まざるを得ない。来年はやれることからやるしかない

い。たとえばコンプライアンスを軸に据えながら、組合活動を推進してまいりたいので皆さんのご協力を是非お願いしたい。

(参考) ≡ 出席者 ≡ (順不同敬称略)

	酒 匂 委員長
	木 村 副委員長
	高 木 理事長 (ゲスト)
	吉 里 総務委員長 (ゲスト)
	永 吉 大阪支部長 (ゲスト)
北海道	西 村 (玉 造 (株))
東 北	湊 (J F E 鋼 材)
東 京	秦 (丸 東 興 業)
	池 田 (ニューエイジ)
	井 沢 (富士鉄鋼センター)
	角 田 (三ノ橋鋼材)
東 海	加 藤 (中 部 鋼 鋳)
	鈴 木 (鈴 将 鋼 材)
大 阪	佐々木 (シーヤリング工場)
	椿 下 (株) 玉 造)
九 州	嶋 津 (豊 鋼 材 工 業)
事務局	柘 野

5. 次回の開催日時・場所

第140回市場委員会

3月6日(金) 於 名古屋